



生みの親といっしょに  
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして  
わたしを 見つめて  
わたしを 聞いて  
わたしを 呼んで

〔私たち(社福)童心会の“運動会をする意味”について〕  
～やる気(意欲)げん気(気力)ほん気(意志)が生まれた運動会～

私たち(社福)童心会の運動会の歴史の始まりは2010年5月にありました。  
 この年の4月に開設された柏さかさい保育園は私、理事長・園長の“鶴の一声”で5月に行う  
 “柏さかさい春まつり”にミニ運動会が行われたのです。  
 3月に新人の先生方が採用され(社福)童心会の理念も保育目標も保育方針も理解されない時に  
 “5月の第1回春まつりにミニ運動会開催”という旗じるしを掲げたのです。  
 先生方には“できるわけがない!?”という不平不満だけだったと思います。  
 しかし子どもたちと保育者仲間たちは2か月足らずの行進やかかけ足の練習をする中で、  
 見事なまでに私たちの保育目標「思いやりと生きる力」を身につけてしまったのです。  
 そして保育方針「わたしを ぎゅっとして、わたしを 見つめて、わたしを 聞いて、わたしを 呼んで」  
 の意味も理解しながら“ミニ運動会と春まつり”を大成功に導いたのです。  
 私たち(社福)童心会の人間教育の基盤はこの時に生まれ、育ち始めたのだと確信しています。

- ふれあい 見まもり 思いやり
- いたわり はげまし 思いやり

私はこの歴史ある行事“春まつりとミニ運動会”が終了してから、  
 保育者仲間たちを集めた反省会で大号泣しながら“ありがとう!!”と感謝の言葉を伝えたことを  
 今も昨日のこのように覚えています。

改めて私は、(社福)童心会の保育目標を思い返してみました。  
 「思いやり と 生きる力」とは仏教哲学の「慈悲 と 智慧」であることは  
 何度も書いて皆さまにお届けしてあります。

ある時、ある本を読んでいましたら慈悲の意味を“慈”と“悲”に分けて解釈をしていました。

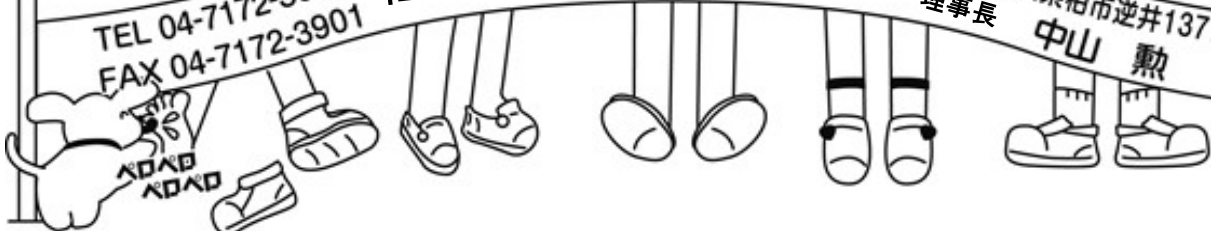


笑ったかす一番 だっこされたかす一番 やさしくされたかす一番  
 遊んだかす一番 でかけたかす一番 チャレンジしたかす一番



E-mail [doushinkai@doushinkai.jp](mailto:doushinkai@doushinkai.jp) URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939 FAX 04-7172-3901 社会福祉法人 童心会 〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1  
 理事長 中山 勲



広辞苑では次のように書いていました。

- “慈”とは、いつくしむこと、めぐみ、恩沢(なさけ、おかげ)
- “悲”とは、仏教であわれみの心、同情する、めぐむ

理学博士の佐治春夫氏は長年、宇宙の摂理を深求する中で、  
宇宙生成法則が生き方の法則と不思議なほど一致しているという結論を得た人です。  
その佐治先生が京都の国際日本文化研究所で研究をしていた時、科学と宗教というプロジェクトに関わり、いろいろな宗教に共通する基本的な要素は何かについて調べたことがあったというのです。  
『ヒンドゥー教、ユダヤ教、仏教、キリスト教、イスラム教、道教、儒教などの多くの教えの中から大切な部分を因数分解すると、基本教義はひと言で表現すると「慈悲」という言葉です。

慈悲の慈とは「人に安らぎを与えられたらいいな、と心から願うこと」、  
悲とは「人の苦しみや悲しみを和らげてあげられたらいいな、と心から願うこと」  
それがすべての宗教に通底(底辺に共通性)している思想だと分かった』と書いていました。  
そして私たちは氏の教えから私たち(社福)童心会の”慈悲”の意味は次のようになりました。

- 慈悲の慈とは「すべてのものを慈しみ 喜びや楽しみを分かちあうこと」
- 慈悲の悲とは「すべてのものの苦しみや 悲しみによりそう心」

そうして私たちの慈悲の意味は  
「すべてのものを慈しみ、喜びや悲しみによりそう心」となったのです。

法人だより10月号のテーマは「私たち(社福)童心会の”運動会をする意味”について」を書いています。  
あえて言いますれば私たちの年間行事、毎日の生活時間のすべては何のためにあるのか？！  
ということをお伝えしたかったのです。

前置きが口説(くど)く長くなりましたが、私たち(社福)童心会の経営理念(哲学)にあります  
「自分を創る・人を創る」～ヒトとして如何に生きるべきか～  
をいつも皆さんと一緒に考えていきたいという思いを何度も何度も口説く書いてしまったのです。

「童心会village(ビレッジ)」という村づくりをしている私たちが  
”Well-being幸せになろうね！幸せになろうよ！”の道しるべの合言葉のように  
”幸せ”になるための訓えを忘れてはならないからです。

それは30万年前から過酷な環境に適応しながら生きながらえてきた  
”ホモ・サピエンス=賢いヒト”たちのように代々伝え訓えられてきた叡智(道理を悟りうるすぐれた才知)  
を高めていかなければならないからなのです。

そして一万年以上も前から培ってきた縄文時代からの狩猟採集民族の訓え、  
「分かちあって、よりそいあって、助けあって 生きる」を伝えあって生きたい、と願い祈り続けているのです。

私たち(社福)童心会の運動会の訓え  
「やる気(意欲)、げん気(気力)、ほん気(意志)が生まれた運動会」  
私たちはこれからの行事、毎日の生活時間は  
「がんばること、つづけること、がまんすること」という歴史ある教えを  
”奥歯をかみしめながら生きることの大切さ”を幼い頃から身につけてほしいと  
いつも思い続けているからなのです。

改めて今、私たちみんなが  
(社福)童心会というこの地に誘(いざな)われて暮らしているのは”天意”だと思っています。  
だから逆らわずに心から穏やかに天命に添って生きていきたいと願っています。

”うるおい 安らぎ 思いやり”

皆さまのお幸せを心から願い祈り続けております。  
どうぞ お幸せに！！

令和6年 10月 吉日  
社会福祉法人 童心会  
理事長 中山 勲